

もう一度  
僕達の  
思い出の  
あの傑作を

2000  
平成12年

ザ・FUCKER! 美乳遊戯  
鮎川あみ

白くて柔らかくて形のいいお乳  
蜜がたっぷりのアソコ  
つやつやのクチビル  
(当時のコピー)

真面目な人気女優の露わな姿一

この年の出来事

- 1月 2000年問題の発生が目撃されたが大きな問題は起きず。
- 7月 舞浜駅前にショッピング施設「イクスピアリ」がオープン。
- 9月 シドニーオリンピック女子マラソンで、高橋尚子が金メダル。
- 12月 都営地下鉄大江戸線が全線開通。



1999年11月にh.m.p専属女優として『新・官能姫 鮎川あみ』にてAVデビュー。身長162cmというモデル級のスタイルと、形のいいロケットEカップを武器に、瞬く間に人気AV女優へと登りつめた鮎川あみ。本作では、神野龍太郎監督と組んだドキュメント作品に挑戦している。

ハキハキとした性格と、食欲なまでにSEXに没頭する生真面目な彼女。お世話になった男優や監督の元へ出向き、エッチのご奉仕をしていくという構成なのだが、その過程で「SEXは仕事か否か…!?」という部分で深く悩む真摯な姿勢に心打たれる作品である。本音で話すリアルな彼女の生々しいセックスが

堪能でき、ロングヒットとなった。

h.m.p専属終了後も活躍の場を広げ、2004年7月にAV女優引退。

盛り上がった乳輪、ツンと尖った卑猥な乳首、淫らに絡むお姉さん系のルックス…などなど、今なおファンの記憶のなかで生き続けている伝説のAV女優である。

※h.m.pではVHSだった懐かしい作品をDVDにて「受注販売」しております。

新人広報部  
ロココ京子の  
幻想脱出日誌



その10  
ロココ「レズの世界に浸る」

なにより二人の幸福感…これもレズ!



互いの感情すらけ出し…これもレズ!!



皆様こんにちは。ロココ京子です。本日も妄想の世界から飛び出し、新たな世界と触れ合うのです! 今回は、話題のh.m.p「レズ」2作品を堪能いたします。

まずは、初美沙希さん×美泉咲さん「レスツチ! 仲良しふたり組初めてのレズ共演」! 序盤から漂う…幸せ感! 親密な仲良し二人が、恥じらいの表情でお互いの身体を愛撫…。慈しみ合い穏やかに見つめ合う。美しく癒される…これがレズなのね!

次は上原亜衣さん×春原未来さんの「レズ・オーガス」

ム!! また癒しを…あ……れ!!!!???

最初の相互オナニーから絶叫のごとく喘ぎ、涎・潮!!! 感情を剥き出し、心も身体も正面からぶつかり合う二人イイイイ! 噛み付き、痕をつけて幸せを得る…。

レズ…深い! 面白すぎるわ! 「心の繋がり」があれば表現するエロスは様々。是非2作品とも見てほしい!

ああ…私も本当に心から繋がれる女性と、心が満たされるようなぶつかり合いをしてみたい…。

はっ! いけない! 現実に生きなくては…。

twitter: hmp広報 @hmp\_kohou

次号: no.12は 初美沙希・宇佐美まい・浜崎真緒&工藤美沙・蓮実クレア・川上ゆう 他

「月刊h.m.p」はh.m.p商品取り扱いセル店舗にて無料で配布しています。品切れの際はご了承ください。

禁: 無断転載 © h.m.p



監督: 真咲南朋



文学史に残る恋愛小説を読むよりも、大学で心理学や哲学やらを学ぶよりも(そして分かった気になるよりも)、この195分を見た方が、性や愛情の真理を突きつけられるかもしれない。なんだか、とにかく凄い作品である。

ある種の本質が、社会的にタブーとして扱われ暗黙となるときがある。後になりそれが様々な真理を孕んでいることが分かる。「レズ・オーガズム」には、そういう作品になる気配がある。もちろん、監督も上原亜衣も春原未来も、そんな大層なことを考えていない。真摯に自分のできる表現を、本気でしているだけである。

冒頭、春原未来は「表裏ある子は嫌い」と話す。人気女優との共演を前に、つまらないレズ作品は撮りたくないと思う。しかし絡んでみて事後に分かる。上原亜衣に表裏など、ない。圧倒されるくらいに芯が強く明快な意思がある。

それは、わががまとは違う。人気を支える精神である。

その上原亜衣が話す。「責められて潮吹いてイキ果てて…そういうの最近疲れちゃって。だからモンスターって言われちゃうんだろうなって」

仕事への姿勢や考えかたは違う。それはお互い認めている。しかし愛し方や生き方はお互いに「絶対」がある。それがレズの中でぶつかり合い、溶け合おうとする。

ファーストシーンの相互オナニーから本気に好きになることを確認する。一般的な作品のオナニーシーンは10分~15

分だろう。このオナニーは40分ある。にもかかわらず見てしまうのはエロを超えるドラマにじわじわ浸されるからである。

このキャスティングを見て、春原未来が上原亜衣を徹底的に責めていくプレイを予想した人も多いだろう。しかしプレイが激しくなるにつれ、春原が上原の意志の強さに圧倒されていく。

怒りや迷いが交錯していく。「余裕持てないくらい壊されたい」と春原が言う。上原の眼が鋭く光る。春原の考える「幸せ」を上原が打ち砕こうとする。責任が伴う。本気で好きにならないと言えない。他の作品では見れない「オーガズム」である。

もうこのシリーズを「エロエロです、ぬけますよ!」と紹介するのは馬鹿らしい。異色である。監督の演出が、一体どこまで及んでいるのかも分からない。透徹なカメラワークは存在をぎりぎりまで消している。

しかし、そんなことは問題ではない。本気で人を好きになると、自分が変わる。それは真実であることを実証している。しかもレズで実証しているのである。



レズ・オーガズム

HODV-21120 | 195分